

「“ごみ屋敷”で暮らす高齢者 一何が要因？どう支援する？ ためこみ症を中心に」

ルーテル学院大学研究員
東京社会福祉士会地域包括支援センター委員会委員
河合美千代

本日の構成

I. ごみ屋敷で暮らす高齢者の捉え方

- A. 生物的な要因
- B. 心理的な要因
- C. 社会的な要因

参考：いわゆる“ごみ屋敷”条例について

II. わが国の高齢者のためこみの様相と支援

- A. 高齢者のためこみの様相
- B. 地域包括支援センターによる支援の実態

III. 今後の支援への示唆

※調査研究はルーテル学院大学大学院の博士論文執筆のための調査をもとに発表しています

I. ごみ屋敷で暮らす高齢者の捉え方

—生物・心理・社会モデル—

生物・・・疾患・障害

ためこみ症、発達障害、知的障害、強迫性障害、脳血管障害、認知症 etc.

心理

生物的要因からくるもの（例：ためこみ症の人の物への愛着）

社会的要因からくるもの（例：片づけを強要されるから隠したい）

社会・・・ためこみによって地域から排除される→社会的孤立を生む

社会的孤立→ためこみを生む

A. 生物的な要因

1. ためこみ症とは

- ・ 海外では1990年代初頭からためこみ（hoarding）の本格的な研究がはじまっていた
- ・ もともとは強迫症のひとつとして分類
- ・ compulsive hoarding(強迫的ためこみ) から hoarding disorder（ためこみ症）へ
- ・ 2013年：DSM-5でhoarding disorder（ためこみ症）が登場
- ・ ICD-11においてもためこみ症が新設

2. ためこみ症の特徴

- ・ 所有物を捨てること、手放すことが持続的に困難
- ・ 自らの所有物に対し、他の多くの人たちがおいている価値を大幅に上回る感傷的（感情面）、手段的（利用可能性）、本質的（審美性）な価値を持つ
- ・ 早期発症、慢性的に経過
- ・ 生活に著しい障害
- ・ 病識が乏しい
- ・ 約80～90%が過剰な収集を示す。主な収集形式（過剰な買い物、無料の品物の収集）

B. 心理的な要因

1. ためこむ人の気持ち①

(1) 感傷的(感情面)価値

- ・物は自分の一部であり、物を処分することは親友を失うような感情。重要な過去のイベントの意味のあるリマインダーとして物を残しておく(Frost & Hartl 1996:347)
- ・新品なもの(はじめて出会った物)も対象になることがある
- ・出会った物があたかも感情をもつ生き物のように感じ、物が“救われる”必要があるように感じたケース(Tolin et al.(=2017: 45)

参考:Steketee, G., & Frost, R.O.(2007)Compulsive Hoarding and Acquiring:Therapist Guide ,Oxford University Press.(=2013,五十嵐透子訳『ホーディングへの適切な理解と対応 認知行動療法的アプローチ セラピストガイド』金子書房)

1. ためこむ人の気持ち②

(2) 物の手段的(利用可能性)価値

- ・いつか使うかもしれない
- ・何かに使える
- ・修理したら使える

(3) 本質的(審美性)価値

- ・変わったアイテムに美しさを見出す
- ・物のユニークさに魅かれる

参考:Steketee, G., & Frost, R.O.(2007)Compulsive Hoarding and Acquiring:Therapist Guide ,Oxford University Press.(=2013,五十嵐透子訳『ホーディングへの適切な理解と対応 認知行動療法的アプローチセラピストガイド』金子書房)

C. 社会的な要因

1. ライフイベントや社会的孤立の影響①

- ・ストレス要因が発生するとためこみが加速する可能性
- ・社会的孤立や喪失などの加齢に関連する要因の組み合わせにより、人生にわたって重症度が増加する可能性

(Ayers et al.2010:147)

1. ライフイベントや社会的孤立の影響②

- ・社会的孤立がためこみの症状に先行するのか、部分的には症状の結果であるのかは明らかではない

(Bratiotis et al.2016 : 409)

- ・近年社会問題となっているごみ屋敷と社会的孤立には深いつながりがあることが推測されるが、その因果関係についてはまだよくわからないことが多い。なんらかの理由で社会的孤立を強めた方がひきこもりの生活を続け、徐々にごみ屋敷の住民となっていくのか、あるいはもののためこみが先行して生じるのか、その経緯はよくわかっていないのが現状である (中尾・溝部2020)

人に家の中を見られたくない
→人を避ける→孤立する

2. 社会的孤立がみられない事例

- ・ Frost & Steketee (=2012: 190) は社会的で社会的に認められた職業にあり、自分の思考プロセスについて深い洞察があるけれどもひとりではためこみの問題を解決できない人の事例を紹介
- ・ 吉村 (2011:128) は「普通の人のごみ屋敷」として、メディア関係の業界で長くキャリアを積み、定年退職後は地域活動に情熱を注いでいる団塊の世代の一人暮らしの初老の男性の事例を紹介
- ・ 3軒のごみ屋敷の「片づけ作業」に参加しフィールドワークを行った梅川 (2017) は、そのうちのひとりのAさんが、高齢の一人暮らしであり一見すると社会的孤立／断絶の事例にあてはまるようにみえながら、実際は社交性に富み、多くの他者との関わりをもっていたことを報告

参考：いわゆる“ごみ屋敷”条例

- ・ 行政が根拠を持って関わるができる
- ・ 環境部局と福祉部局の連携
- ・ 地域共生社会の実現
- ・ 条例を制定した自治体において、行政代執行が行われるのはひと握りの事例にすぎず、多くは行政代執行に至る前に解消に至っている

※海外の研究でも、工夫のない強制的な介入はさらなる状態悪化（再発）を招くことが指摘

ただし、条例の制定は、期待されたほどには導入が進んでいない
→ 条例制定ですべての事例が解決するわけではないという現実を受け止めつつ、解決している多くの事例に目を向けて、成功体験を共有することが必要

Ⅱ．わが国の高齢者のためこみの 様相と支援

全国地域包括支援センター調査①

調査の概要

調査対象者：地域包括支援センターの職員（職種は問わない）

全国の地域包括支援センターの中から2000センターを無作為抽出

調査方法：調査票を配布し回収（郵送）

調査期間：2018年12月25日から2019年3月20日

対象事例：（1）65歳以上の高齢者 （2）本人に一度でも会えた事例

シートA：地域包括支援センターが訪問したいいわゆる“ごみ屋敷”で最も物の量が多い事例
（1事例を提出）

シートB：地域包括支援センターが深く関わった事例
（複数事例があれば複数事例の回答協力を依頼）

回収率：24.7% 有効回答数：748事例

※この調査研究はルーテル学院大学大学院の博士論文執筆のための調査をもとに発表しています

全国地域包括支援センター調査②

調査の目的と方法

- 1 基礎的データの収集を行い**全体像を把握**
- 2 潜在クラス分析を用いて**高齢者をタイプへ分類**
- 3 **片づけ実施に関する要因**と**片づけ後の状態維持の要因**を明らかにする

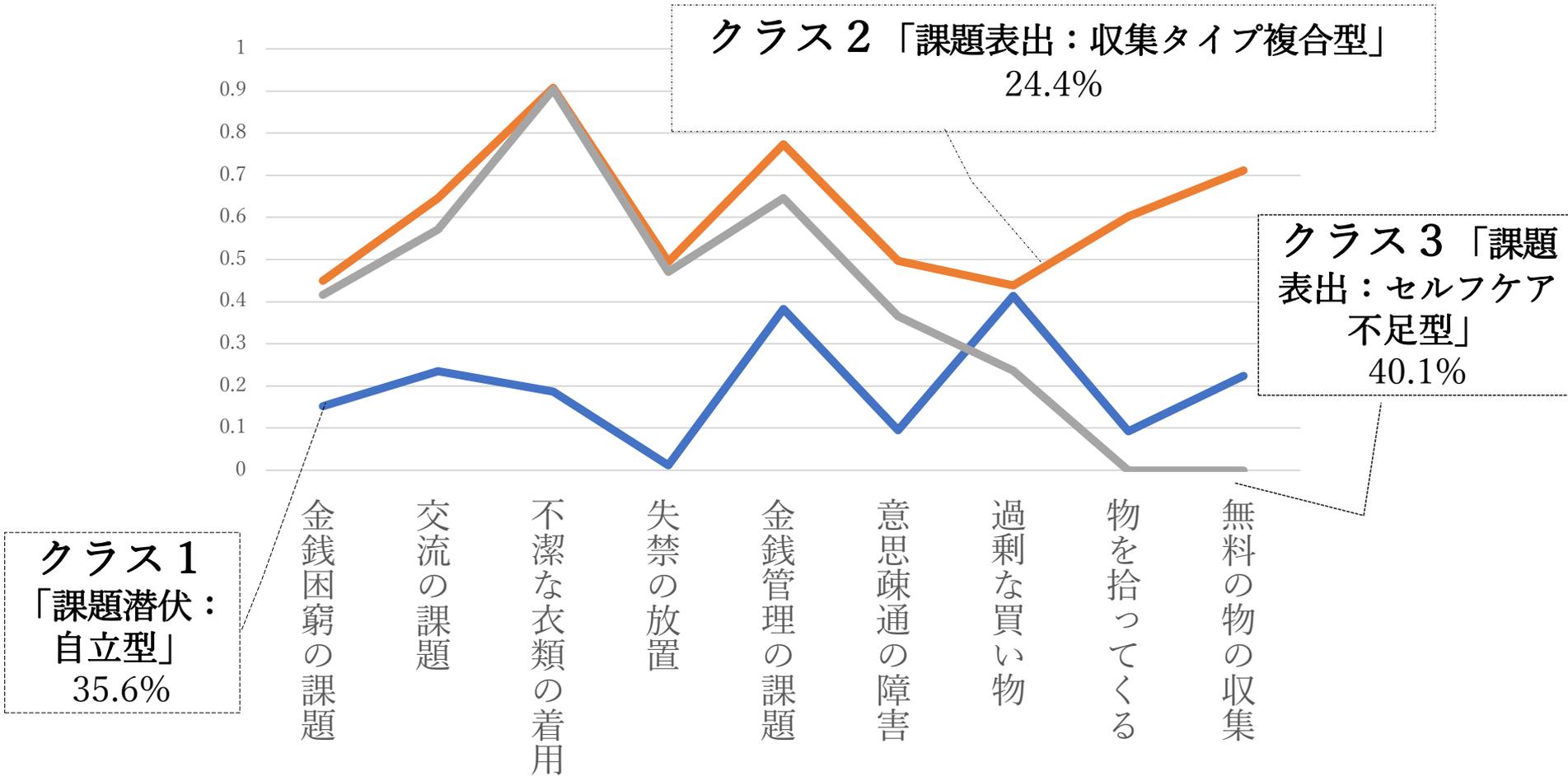
A. 高齢者のためこみの様相

1. 概要

- 1 男女比 男性406人（54.3%）、女性335人（44.8%）
- 2 疾患 ためこみに関連する病気がある（疑い含む）が8割弱
- 3 過剰収集 不明を除いた約7割の人に収集行動あり
- 4 クラッター・イメージ・スケール（CIR）
軽症2.1%、中等症51.3%、重症44.1%。
- 5 問題の認識 「欠如」あるいは「不十分」が7割
- 6 金銭困窮 **生活保護受給者が17.4%。**
一方で金銭的困窮の課題がない人43.4%。
- 7 交流の課題 課題「なし」が28.3%
- 8 不潔な衣類の着用 「なし」が13.8%

約4割の人はお金に困っていない

2. 3タイプに分類（潜在クラス分析による）



Ⅲ. 今後の支援に向けて

1. ソーシャルワークを基盤とした実践①

- 生物・心理・社会モデルによる全人的アセスメント
 - ・ 疾患の見立て
 - ・ 物に対する価値や信念
 - ・ 過剰収集の実態と対処
 - ・ 家屋のリスク評価
 - ・ クラッター・イメージ・スケール（CIR）の活用
 - ・ 家族や近隣との関係
- 非審判的態度

1. ソーシャルワークを基盤とした実践②

■ 本人との協働による片づけ支援

- ・ 現状把握（本人の理解を手助けする）
- ・ 動機づけ
- ・ 本人の目標設定
- ・ どこから片づけを始めるか
- ・ 物の仕分け、物を手放す練習
- ・ 状態維持（再発防止）に向けて

3. 地域での連携

■ フォーマル・インフォーマル機関との協働

- ・ 消防、大家、病院etc.
- ・ 本人をエンパワーする片づけ支援

■ 法的措置（条例等）との組み合わせ

- ・ bad guyとgood guy（北風と太陽）

例：bad guy(環境部局) とgood guy（福祉部局）

■ 防護服・片づけ費用の捻出

American Psychiatric Association (2013) Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders (DSM-5), 5th Ed., American Psychiatric Publishing. (= 2014, 日本精神神経学会日本語版用語監修, 高橋三郎・大野 裕監訳, 染矢俊幸・ほか訳『DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル』医学書院.)

Ayers, C. R., Saxena, S., Golshan, S., & Wetherell, J. L. (2010) Age at onset and clinical features of late life compulsive hoarding, *International Journal of Geriatric Psychiatry*, 25(2), 142-149.

Bratiotis, C., Ayers, C., & Steketee, G. (2016) Older adults who hoard, D. B. Kaplan, B. Berkman, D. B. Kaplan, B. Berkman eds. *The Oxford handbook of social work in health and aging*, 2nd ed. Oxford University Press, 407-416.

Frost, R. O., & Hartl, T. L. (1996) "A Cognitive-Behavioral Model of Compulsive Hoarding", *Behaviour Research and Therapy*, 34(4), 341-350

Frost, R. O., & Steketee, G. (2010) *Stuff: Compulsive Hoarding and the Meaning of Things*, Houghton Mifflin Harcourt. (= 2012, 春日井晶子訳『ホーダー—捨てられない・片づけられない病』日経ナショナルジオグラフィック社)

五十嵐透子 (2019) 『片づけられないのは「ためこみ症」のせいだった!?!』青春出版社.

市川亜矢子 (2021) 「第7章3『「ごみ屋敷」対策—神奈川県横浜市』」岸恵美子編『セルフ・ネグレクトのアセスメントとケア—ツールを活用したゴミ屋敷・支援拒否・8050問題への対応』中央法規出版, pp. 276-283.

河合美千代 (2017) 「不適切な居住環境 (いわゆるゴミ屋敷) にある高齢者の様相—2タイプへの分類とためこみ行動に着目した検証」『社会福祉学評論』18, 26-38.

岸恵美子編集代表, 小宮山恵美・滝沢香・吉岡幸子編 (2015) 『セルフ・ネグレクトの人への支援—ゴミ屋敷・サービス拒否・孤立事例への対応と予防』中央法規出版.

向井馨一郎・松永寿人 (2016) 「ためこみ症 (特集 DSM-5の新機軸と課題 (1) 新たに登場した病名)」『臨床精神医学』45(2), 187-192.

中尾智博 (2012) 「強迫性障害とhoarding (溜め込み) (特集 強迫性障害)」『臨床精神医学』41(1), 53-59

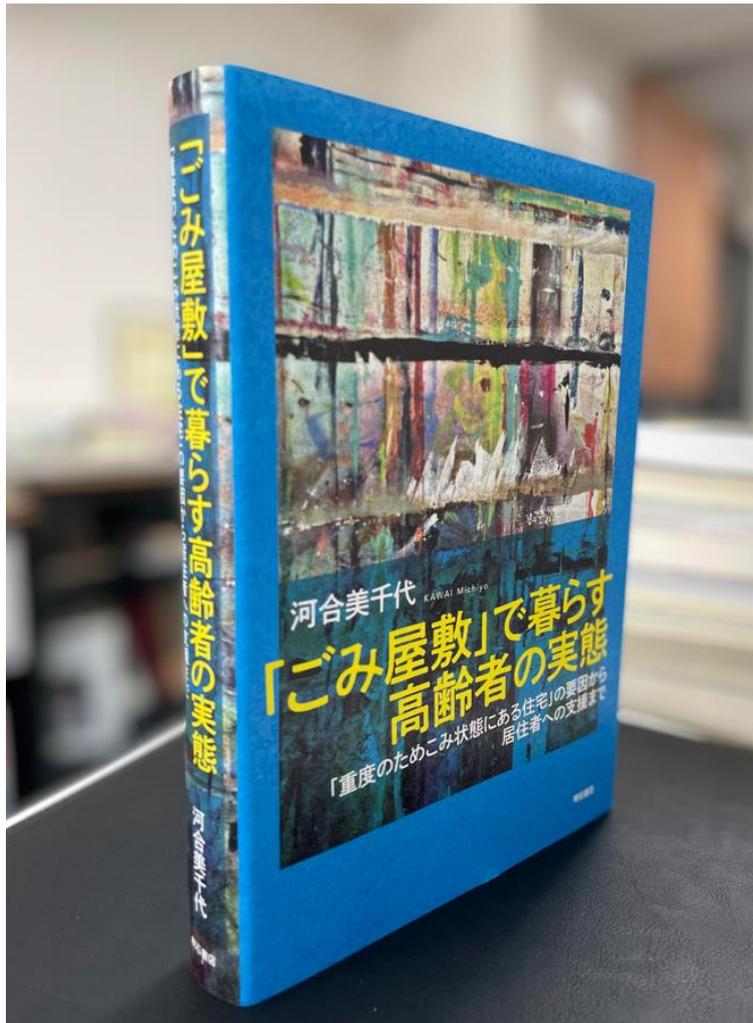
中尾智博・溝部太郎 (2020) 「ためこみ症における社会的孤立」『精神科治療学』35(4), 391-396.

Steketee, G., & Frost, R. O. (2007) *Compulsive Hoarding and Acquiring: Therapist Guide*, Oxford University Press. (= 2013, 五十嵐透子訳『ホーディングへの適切な理解と対応—認知行動療法的アプローチ セラピストガイド』金子書房)

Tolin, D. F., Frost, R. O., & Steketee, G. (2014) *Buried in Treasures: Help for Compulsive Acquiring, Saving, and Hoarding*, 2nd ed. Oxford University Press. (= 2017, 坂野雄二監修, 五十嵐透子・土屋垣内晶訳『片づけられない自分が気になるあなたへ—ためこみ症のセルフヘルプ・ワークブック』金剛出版)

梅川由紀 (2017) 「『ごみ屋敷』を通してみるごみとモノの意味—当事者Aさんの事例から」『ソシオロジ』62(1), 23-40

吉村夕里 (2011) 「PSWの地域活動とごみ屋敷 (ごみ屋敷の住人たち: 専門職が地域活動で出会う人々 京都文教大学人権委員会&京都文教短期大学人権委員会共催)」『心理社会的支援研究』(2), 125-133.



ご一読いただけると
幸いです！

<https://www.akashi.co.jp/book/b612001.html>